

# しらおい再発見

地域学講座

4 陣屋地区



仙台藩白老元陣屋資料館

しらおいのまちを歩いてみませんか

2017年3月

民族共生象徴空間整備による

白老町活性化推進会議

## 4 陣屋地区

内 容 仙台藩白老元陣屋資料館から、愛宕神社、藩士墓地、陣屋跡  
鹽竈神社ほかを歩きます

ルート ①仙台藩白老元陣屋資料館 ⇒  
②愛宕神社跡・藩士墓地 ⇒  
③史跡白老仙台藩陣屋跡（外曲輪・内曲輪） ⇒  
④鹽竈神社跡

### ① 仙台藩白老元陣屋

維新前夜、津軽海峡を越えて蝦夷地へ渡った男たちがあった  
幕命を受けた東北仙台藩の藩士たち

彼等の使命は南下政策をとるロシアから蝦夷地を守ることにあった  
松木覚著「北に生きる武士団」より

\* 仙台藩白老元陣屋は、今からちょうど160年前、江戸時代末の安政  
3(1856)年に完成、慶応4(1868)年までの12年間にわたり、常時1  
00名以上の藩士たちが駐屯していた本陣、詰所である。

その目的はロシアの南下政策に備えての北方警備。幕府は東北諸藩  
に命じ、蝦夷地を分割・警備させた。仙台藩に割り当てられたのは東  
蝦夷地といわれる白老から襟裳岬を経て十勝・厚岸・根室、そして国  
後・択捉の北方の島々を含む広大な守備範囲であった。

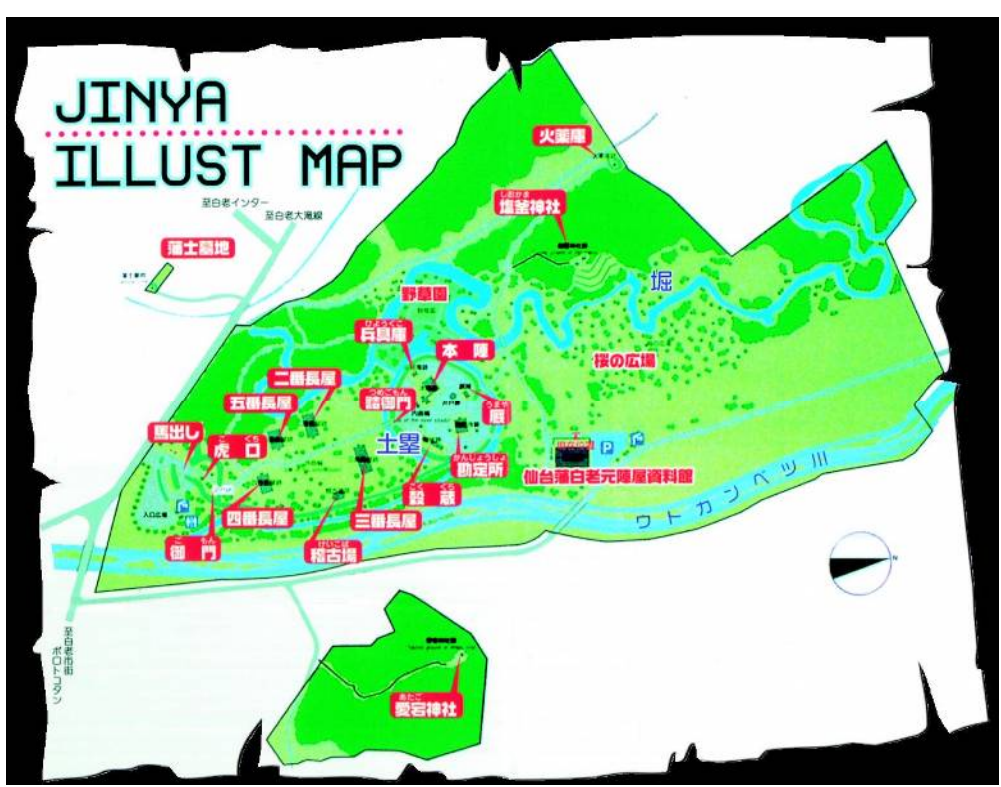
慶応4年に勃発した戊辰戦争により廃塁となったが、昭和41年の  
国による史跡指定以降、環境整備がすすめられ、知られざる幕末の北  
海道の姿を、史跡内に所在する仙台藩白老元陣屋資料館（昭和59年  
開館）とともに克明に綴っている。

陣屋跡には、身の丈を遙かに越す高さで土を盛り上げた土塁の列が  
巡らされている。陣屋外周をぐるりと巻く外側の土塁は外曲輪と呼ば  
れ、川の流れを取り込んで自然の要塞をなし、さらに北側には内曲輪

が円形に築かれ、基地として二重の構造を持った。内曲輪には中枢機能である本陣・勘定所・兵具庫・穀蔵・厩などが置かれ、外曲輪には稽古場や二・三・四・五番の4棟の長屋が配備されていた。建物跡は発掘調査後、間取りや柱跡が平面復元され、遊歩道や案内板、四阿などの便益施設も整備が施されており、また当時6つあった門のうち、御門・詰御門の2基が立体復元され、さらには、藩士の勧請した塩釜神社・愛宕神社や藩士墓地なども付近住民により手厚く護られており、野外博物館的要素を含んだ史跡公園となっている。

仙台藩による蝦夷地警衛をテーマとした白老元陣屋資料館。そして広さ35万㎡にも及ぶ幕末の蝦夷地の姿をとどめるわが国最大の陣屋跡は、道内有数の史跡公園として、かつての激動の影を落としつつ、町民の生涯学習の場、憩いの場となり、多くの保存団体や研究団体が頻繁に出入りする拠点となっている。

白老町では2020年の民族共生象徴空間のポロト湖畔への開設に向け、陣屋跡をさらに活用すべく、平成28年度より第2次環境整備事業を開始する。







仙台藩白老元陣屋資料館



史跡白老仙台藩陣屋跡





御門



外曲輪





詰御門



内曲輪





仙台藩士墓地







鹽竈神社鳥居



鹽竈神社





三好監物歌碑

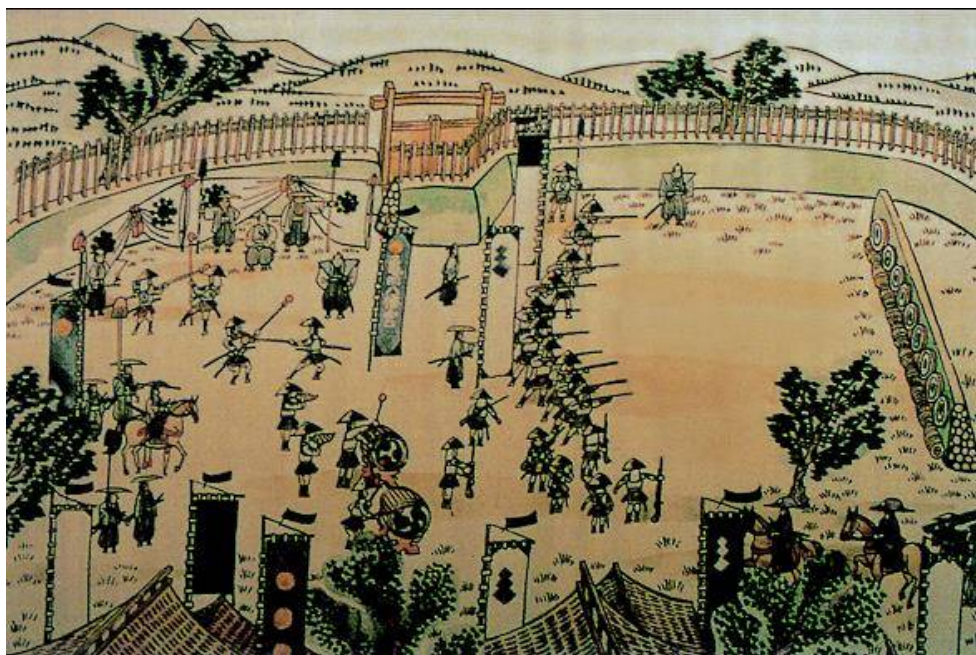


白老仙台藩元陣屋跡





白老仙台藩元陣屋絵図





**編 集** 民族共生象徴空間整備による白老町活性化推進会議

**監 修** 白老町教育委員会生涯学習課

**問合先** 仙台藩白老元陣屋資料館 TEL0144-85-2666